

0482-54-9017
木藤 啓子 様

← 森 一久 (全2枚)

後程、お電話しつう。 earu

国前寺の縁起

国前寺は、暦応三年（1340）日蓮宗の僧日像に師事した暁忍坊によって開かれ、はじめ暁忍寺と称したが、江戸初期の明暦二年（1656）に、二代藩主浅野光晟室満姫（豊臣秀吉の姻戚当る、法名・自昌院殿英心日妙）が菩提寺としたことから、寺名を現在の自昌山國前寺と改めた。

歴代住職は、現在までに三十八代を数え（別記）、同寺は安芸地方における日蓮宗寺院の中でも古い寺院として著名である。

なお、日像師は、日蓮宗の開祖日蓮の直弟子の一人として、若年にしてとくに嘱望され、日蓮臨終の際にとくに法華経の布教に専念するよう託された。そのために日本全国を行脚し、安芸国に来て、当時海岸にあった尾長山の麓の草庵に住む「暁忍」と会い、暁忍が法華経の信仰に帰依したことから本寺を開いたものである。

別添の「 」は、いまも国前寺に残る日像の筆になるものである。

国前寺は、日蓮以来の不受不施（他宗の者からの施しものを受け取らず、亦渡さない）の信条を厳格に貫いたため、同様の考えの寺院とともに幕府から弾圧を受けた。そして前記自昌院等の庇護にかかわらず、遂に寺領没収となったが、信者等の強い支持のもと、明治維新まで、一部建物の縮少・撤去にはあったものの生き延びてきた。

また1945年には原爆により（2.6kmの距離）家屋が傾斜、尾根や庇の一部が吹き飛んだ。信徒の多くも被災したので、彼らの生活が漸く旧に復した被爆30年後になってはじめて、国前寺は寄付を募り、復旧に着手・完了した。1986年には、その建物は重要有形文化財の指定を受けている。

現在の寺地は、広島駅北口より北東約600mに位置し、広島市街を一望する東区山根町の尾長山の尾根を削り取った大地に南面し、約8000坪（25,000m²）の寺域を構えている。

歴代住職名	選化
開山 日像	康永元年（一三四二）
二 代 日 忍	文和三年（一三五四）
三 代 妙 実	貞治三年（一三六四）
四 代 妙 全	永徳三年（一三八三）
五 代 日 嚴	応永二十一年（一四一四）
六 代 日 忠	永享三年（一四三一）
七 代 日 慈	宝徳二年（一四五〇）
八 代 日 久	寛正三年（一四六二）
九 代 日 賢	文明十年（一四七八）
十 代 日 淵	文亀三年（一五〇三）
十一 代 日 正	永正十二年（一五一五）
十二 代 日 軌	天文元年（一五三二）
十三 代 日 在	天文七年（一五三八）
十四 代 日 梁	永禄三年（一五六〇）
十五 代 日 教	天正元年（一五七三）
十六 代 日 永	文禄三年（一五九四）
十七 代 日 音	元和八年（一六二二）
十八 代 日 達	万治四年（一六六一）
十九 代 日 珠	万治四年（一六六一）
二十 代 日 勝	貞享三年（一六八六）
二十一 代 日 迨	元禄十年（一六九七）
二十二 代 日 憲	元禄十年（一六九七）
二十三 代 日 眼	元禄十四年（一七〇一）
二十四 代 日 啓	元文元年（一七三六）
二十五 代 日 衍	寛保二年（一七四二）
二十六 代 日 禎	安永四年（一七七五）
二十七 代 日 報	明和二年（一七六五）
二十八 代 日 演	寛政六年（一七九四）
二十九 代 日 遵	享和二年（一八〇二）
三十 代 日 閑	文化六年（一八〇九）
三十一 代 日 徵	文政二年（一八一九）
三十二 代 日 等	文化十三年（一八一六）
三十三 代 日 相	弘化元年（一八四四）
三十四 代 日 禪	慶応二年（一八六六）
三十五 代 日 静	文久二年（一八六二）
三十六 代 日 昇	明治三十一年（一八九八）
三十七 代 日 秀	昭和十三年（一九三八）
三十八 代 日 華	現在

同録につける
もの

この風鈴は、約千年前、~~多~~かゝり京都~~の~~第一流の

甲冑師であつた明珍家の子孫が、そのいわは

兵~~器~~作術^{製造}を生かして作つてきたものびす。その

鈴虫の音色にも似た澄んだ音と、伝説が言ふんた

先求あるたなすまいは、人々の心をなほ着かせ純化する

るものとして、江戸院を含め、~~広~~く愛用されていふ